

このほか、正月二日には悪魔払いと称し、地区内一戸一戸を回り、九月十六日には、さっぺと呼ばれる厄払いの神楽が各戸の前で行われる。

管理と組織……普通の青年団とは違い、祭典を執行するために組織された甲組青年団が管理運営にあたる。三五歳までの長男で構成され、団長、副団長、会計、宮本を各一名ずつ置いた。

神楽の頭・衣装は、社務所で管理していたが、現在では集会所(生活改善センター)で管理している。「笠揃い」は秋祭りにだけ前日に、「笠抜き」は春秋とも八幡神社の祭礼の夜に、いずれも宮本で行う。笠抜きには、四、五〇歳の年輩者が舞う。



高田島の神楽舞

〔第一区〕

演目と衣装……踊り手、囃子方も衣装は平服で、囃子は獅子舞に用いる社壇に取り付けた太鼓方一名、笛二、三名、鉦一名である。

採物・用具・楽器など……獅子頭はケヤキ彫りの漆塗りで赤を基調とし、眼と歯には金色、耳・鼻には黒色を配してある。頭の後部は細く切った和紙で飾ってある。

芸能の構成と内容……秋の祭礼において、神輿渡御が二年に一度下原から小塚までの区間において行われる。諏訪神社境内において、①四方固め、②幣舞、③矢車の順に踊られる。

① 四方固め……獅子遣い二人が入り、前かぶりが手を広げな